

## 第2回全国邦楽合奏フェスティバル 和楽器による音楽づくり

### ～声や邦楽器を使った線の音楽によるヘテロフォニー～

2014年2月1日(土) 14:20～15:50

担当:山口賢治(尺八)

#### ◆ワークショップの狙い

日本の伝統音楽の特質の一つであるヘテロフォニーと邦楽器の奏法に特徴的なポルタメント奏法を組み合わせ、音楽創作を行う。このワークショップを通じて、参加者に体験的学んでもらうポイントは以下の通り

- A 声明や三曲合奏等、日本伝統音楽における合奏の重要な原理であるヘテロフォニーの音楽を知ってもらう。音楽の三要素等、普段接している音楽要素や構成とは異なる音楽の組み立てを体験する。
- B 微分音的なピッチの変化やポルタメント的な音の動き(尺八、三味線のスリ、箏の押手・柱のスライド等)を用いることにより、演奏を通じて邦楽器の構造や特性を感じ取ってもらう。
- C 現代の作曲家による、邦楽器の作品例を試聴し、日本の伝統音楽が育んできた音楽要素や方法論が現代作品においても活かされていることを知ってもらう。

#### ◆実施スケジュール

- ① アイスブレイク 手拍子による音楽遊び
- ② 音楽づくりワークショップについての概要説明
- ③ 全体 W.S.の導入説明(ヘテロフォニー音楽の説明) 参考音源:声明
- ④ 声によるヘテロフォニー音楽の試作
- ⑤ 各楽器のポルタメント奏法についてのまとめ  
箏…押手、柱のスライド 三味線…スリ、コキ 尺八…スリ、ゴリ 鼓 など
- ⑥ 楽器別に、連続的に音程をスライドさせながら1オクターブもしくは2オクターブの幅でゆっくり上行もしくは下降させる。⇒ それぞれの楽器がつくる音響を聴き合う。⇒次に異なる楽器の組合せを試行してみる。

誰でもすぐ出来るやさしい奏法や単純な音の動きでも、複数の音を積み重ねたり、重ね合わせ方を工夫すれば音楽ができる。また、重ねあわせることにより結果的に生じるズレも音楽的效果となる。

曲線的な音の動きやヘテロフォニーを活用した現代作品の作品例の試聴 : 新美徳英 作曲「ときのかえ」 ※鑑賞ポイント:尺八の線的ヘテロフォニー、箏の押手の積み重ねによる音楽

- ⑦ 複数の楽器混成チームにグループ分けし、今までの方法論を活用しながら作品の創作、発表、評価を行う。

創作の過程で図形楽譜を用いると良い。演奏技術に優れた者にはソロの即興部分を設ける

線的ヘテロフォニーの方法論を徹底したオーケストラ作品例 : 参考作品 西村朗 作曲「2台のピアノと管絃楽のヘテロフォニー」※鑑賞ポイント:各楽器の音の線の作り方とその組合せ。音の積み重ねやズレの効果による音楽色彩感を感じ取る。

- ⑧ まとめ、質疑応答